



女子団体戦レビュー

歓喜の初戴冠

窮地に真価を発揮した松山、日本一へ駆け上がる

実績ある強豪が順調に勝ち進んだ女子団体戦。準決勝以降はいずれも際どい戦いの連続となったが、バランスのいいチーム力を有する松山が激戦を抜け出し初優勝を飾った。勝負どころでのたくましさ、鍛錬の成果が表れていた。

双方とも一歩も譲らない拮抗した展開のなか、最後は強靱な精神力を発揮して攻め続けた篠澤／庭田が⑦―⑤で振りきって勝利。初となる日本一の称号を、力強くつかみとった。

迎えた決勝。2面による進行でまず松山の黒沢／佐藤が野間愛／山内にて勝利するが、昇陽も野間結菜／土田ひらりが皆上心／高橋彩月に2で競り勝ち、イーブンに戻す。大一番となった3番も熱戦となり、昇陽の大釜／池田が60―2から3ゲームを連取して王手をかけるも、松山の篠澤／庭田が第6ゲームを取り返して、決着はファイナルへ。



上田絆灯 早藤樹里



3位 京都光華 [京都]

「個人戦も誰も出ていませんし、ここまでこれるとは思っていなかった」と吉田隆昭監督も驚く躍進で4強入りした京都光華。ダブル後衛主体のチームが多いなか、前衛を生かした巧みな組み立てで存在感を示した

女 子団体戦は各ブロック大会を制した強豪校が、安定感ある戦いぶりでも上位に進出した。トーナメント左上のヤマでは、19年の優勝チームで第1シードの昇陽が総合力の高さを発揮。2回戦で周陽、準々決勝では春のソフトテニスフェスタで愛知選抜として優勝を挙げたメンバーを擁する東浦北部を0で退け、危なげなく準決勝にコマを進めた。左下のパ―トでは、過去5回の優勝を誇る名門・就実が底力を見せる。矢作との初戦は1番を落とすなど硬さ

もあつたが、準々決勝では九州1位の野津を破った大館一に1ゲームも与えず完勝。いい流れでトップ4入りを決めた。右上のヤマでは、個人戦3位の黒沢／庭田と実力2ペアが牽引する松山が順当に勝ち上がる。初戦で地方のある榛原を③―①で倒し波に乗ると、準々決勝も小城を0と寄せつけず、4強に進出した。最激戦区となった右下のパートは、個人戦2位の薄優衣／塚本七海を擁する第2シード朝日丘が2回戦で難敵の広島に勝利。しかし続く準々決勝では京都光華が会

心の試合運びを見せ、3番勝負で原綾那／西村ひよが競り勝って見事にベスト4に進んだ。準決勝は2試合とも緊迫した接戦となった。昇陽vs就実の名門対決は1番を昇陽の野間愛加／山内風音、2番を就実の柴田凜／近坂優衣が取って1―1に。3番は昇陽の大釜彩乃／池田つばきが1で締め、連覇にあとひとつと迫る。もう一方の準決勝は、京都光華の勢いに松山が先行を許す展開となったが、大将の黒沢／佐藤が逆転勝利で3番につなぐと、流れは松山へ。篠澤／庭田が原／西村を1で押しきって、決勝への出場権を手にした。

3位 就実 [岡山]

4連覇を達成した39回大会以来、13年ぶりとなるベスト4進出を果たした就実。4大会ぶりに監督としてベンチに入った植村正明監督は、惜敗に悔しさをにじませながらも、「徐々に4つに残れたのはよかったと思います」と笑顔を見せた



柴田凜 近坂優衣